

# 人 きらり

## バンド活動を支えてくれた家族に感謝 夢は80歳まで元気に演奏すること

「バンドは、影野保育所の母親仲間でなにかやりたいね、ということから話が始まって勢いで始めた」と語るのは影野の女性バンド「シャドーフィールド」の皆さん。

今年で結成12年目になり、今や、地域のイベント、施設訪問と引張りだごで日程調整に苦労するそう。

その皆さんの練習している影野におじゃまして話を伺った。

12畳ほどの部屋いっぱいには、キーボード、ドラム、ギター等の楽器が所狭しと並ぶ。メンバーは6人。他にもイベントのたびに協力してくれる友人やダンサー役が何人かいてステージを盛り上げてくれる。平均年齢は40歳。練習は週一回だがイベントが近づく回数が多くなる。

全員、音楽の心得はない素人だったという。初めて手にした楽器にわくわくしながら挑戦したのはよかつたが、なんと1つでも皆30代の主婦。仕事もあり、子育て

も



「始めた頃は、子育ての真ん中で小さい子どもたちを家に置いてくるので主人の理解がなければ出来なかった。そ



女性バンド シャドーフィールド  
のみなさんと世話役 田村さん 四万十町影野

のうえ、バンドの機材運びからセッティングまで主人たちが自分のことのようにやってくれ、本当にありがたかった」とこれまで支えてくれたご主人や家族に感謝することを忘れない。メンバーはバンド活動だけではなく、旅行をしたり忘年会の飲み会をしたりと普段から交流を深めている。できれば80歳までみんなで元気に演奏することが夢だ。

これからの目標は？の問いに、まずは一曲、ステージで譜面なしで演奏することだそう。

これまでは女性バンドということのみで注目されがちだったが、これからは来ていただいたお客さんに喜んでもらえるようさらに技術を磨きたいという。バンドとしてのレベルアップを願うメンバーの強い意欲が感じられた。

## 季節の風景 ● 11月

# 四万十の栗

芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋・・・

ぐうぐう。でもやっぱり食欲の秋!!今年も、秋の果物を使っただあまーいスイーツが店頭に並びはじめました。

岩本寺の入り口には、『三度栗』というお菓子があります。岩本寺の七不思議をモチーフにしたものです。

昔、ある子どもが弘法大師に栗を差し上げ、「こんな栗が何度もとれるといいなあ」というと、大師が願いを聞き入れ、年に三回実をつけるようになり、以後、人々は『三度栗』と呼び、煎じて病などに用いたというお話。今でもその栗の木は境内に残っていて実をつけています。

(実際は年に一回しか実をつけません・・・)

栗は、日本各地で縁起物とされており、戦国の武将は出陣の祝儀に打鮑と搗栗、昆布を用いて「敵にうちかつてよるこぶべし」と縁起を担いだり、今ではお

せちに用いたりもされています。栗には栄養分が豊富に含まれており、こういった文化やエピソードが生まれたのかもしれない。

この秋、北ノ川小学校で不思議な栗が収穫されました。なんと一つの毬に実が七つ!!今月は、なんと縁起のよい七つ子栗が表紙です。



子栗が表紙です。